

G-Core Labs.

直接接続サービスを活用し、将来に備えたネットワーク
アーキテクチャを実現

G-Core Labs社について

G-Core Labs社はルクセンブルグに本拠を置く世界的なITソリューションプロバイダで、マネージドホスティングサービス、CDN、クラウドサービスを提供しています。同社は、業界をリードするゲーム開発会社Wargaming社のために今までに例の無いITインフラを構築し、その結果「[複数参加型オンラインゲームサーバにおける同時接続者数最多 - 1,114,000人](#)」というギネス世界記録を樹立しました。膨大なリアルタイムデータの送受信という厳しいパフォーマンス要求を満たしながら、ミッションクリティカルなインフラを高い費用効率でスケールし続ける可能性を保証し、こうした貴重な企業資産の将来に備えるために、G-Core Labs社はMegaportの柔軟な相互接続サービスを活用しています。



G-CORE LABS

課題

市場調査会社Niko Partnersによると、東南アジアゲーム市場の売上規模は2020年までに30億ドルを超えると見込まれます。新規ゲーマーの増加や既存ゲーマー当たりのプレイ数の増加、より高い解析度でのストリーミングなどは、データ流通量の飛躍的拡大をもたらした主要因の一部にすぎません。こうしたデータフローの急増に伴い、G-Core Labs社は様々な課題に同時に対処する必要に迫られました。

ネットワークパフォーマンス:

Wargaming社の大規模多人数型オンラインゲームの主力商品「World of Tanks」では、最高スループットでの安定したサービス提供や遅延を最低限に抑えることが優れたユーザーエクスペリエンスの提供に直結します。しかし質の高いオンラインゲーム体験の提供は、インターネットのベストエフォートという特性により困難な課題となっています。したがって、より豊富なバージョンでゲームを提供するための基盤やアジア太平洋地域の多様なユーザーを支えるためには、往復遅延時間 (RTT) やパケットロスを最低限に抑えられる堅固で耐久性のある相互接続がこれまで以上に必要不可欠なのです。

費用効率:

ネットワーク上のデータ通信量は時間帯や時期により大幅に変動します。通常、多くのプレーヤーがオンライン接続する現地時間の19:00から22:00が一日の中でピークとなり、またクリスマスや夏休みなどの長期休暇期間ではピーク時の通信量は更に多くなります。G-Core Labs社が従来の帯域幅獲得方法でピーク時のエンドユーザーの要求を満たすためには、予測や事前プロビジョニングを行い、より広い帯域幅にコミットする必要があります。このため必然的に総接続コストが高くなり、特に国際帯域幅の価格の高い東南アジアでは懸念材料となります。

柔軟性:

通常、従来のプロバイダがサービス要求を完了するには、より長いプロビジョニング時間とより多くの手作業が必要です。リードタイムは大幅に変動し、単にアカウントをセットアップしLOA取得要求を送信するだけで数週間かかることもあります。通信容量の選択肢も既定の帯域幅に限られるため、G-Core Labs社が必要な場所で必要なタイミングでリアルタイムな帯域幅のスケーリングを行うことは、上りでも下りでも、不可能です。



「当社のビジネスはその性質上、遅延が最小限で帯域幅が保証されており、かつ柔軟性もある、低価格な相互接続を必要とします。」

調査したところ、上り・下りの接続をMbps単位でリアルタイムでスケールするための真の柔軟性を提供するプロバイダは、アジアではMegaport社だけでした。その他にもコストと運用の両面に有益な重要ポイントとして、追加サービスのセルフプロビジョンがポータルを介して簡単に行えるという点がありました。」

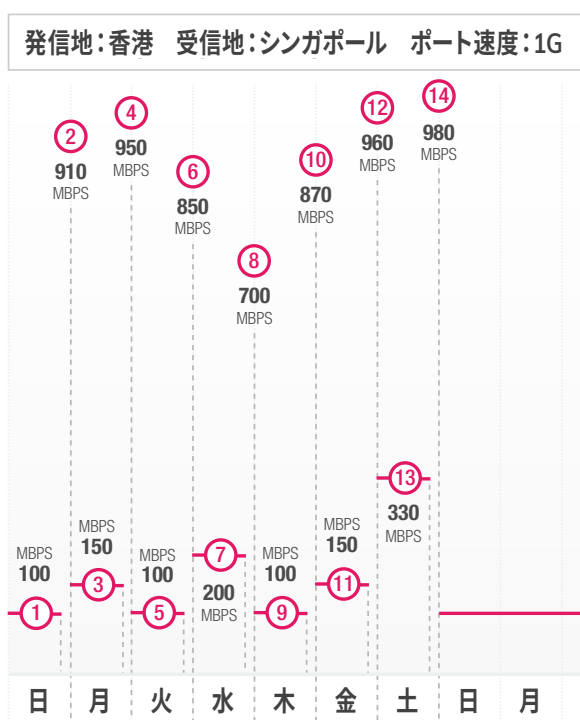
— G-Core Labs代表取締役Andre Reitenbach氏

ソリューション

Megaportは、アジア太平洋地域の主要POP間で、適切な通信容量のスケラブルな接続が必要に応じて費用効率の高い方法で消費できるようにすることにより、G-Core Labs社が抱えていたネットワークパフォーマンス、費用効率、柔軟性に関する課題を解決しました。

香港、シンガポール、シドニーにあるMegaportの3つのインターネット相互接続点 (IX) と、香港・シンガポール間のデータセンター接続とを組み合わせたピアリングにより、G-Core Labs社は大容量のデータ通信をダイレクトにより良いルートで転送できるようになり、エンド顧客の要求を満たす高いパフォーマンスの提供が可能となりました。ネットワークパフォーマンスで言うと、これはRTTを150msをはるかに下回る数値にまで最少化し、パケットロスも最低限にすることに匹敵します。

Megaportの「必要な分だけ速度を選べる」帯域幅モデルはオンデマンド方式という他に類を見ないもので、G-Core Labs社はまさに必要なものを必要な時に消費することができる自由と制御性も手にしました。これにより、プランニングが大幅に簡素化でき、迅速性が向上しました。どの程度のコスト削減が可能かは、Megaportの料金試算プログラムで簡単にチェックできます。



例えば、1週間の帯域幅コストを一日のピーク時3時間について比較した場合では、**82%の削減***となります。

- 従来型プロバイダで1G固定:
週500 USドル
- Megaportで適切な通信容量で接続:
週88 USドル

一つのポートで複数のサービスを提供するというMegaportソリューションの簡潔性により、最終的にG-Core Labs社は、適切な通信容量や利用量に応じた料金によるメリットに加え、コストや運用面の利点も享受することができました。そのためG-Core Labs社は、近い将来Megaportを介したクラウド直接接続サービスを導入することを検討中です。

*一般的なレートに基づいており、事前の通知なく変更されることがあります。帯域幅コストはVXCのみです。



ポイント



クリック



コネクト

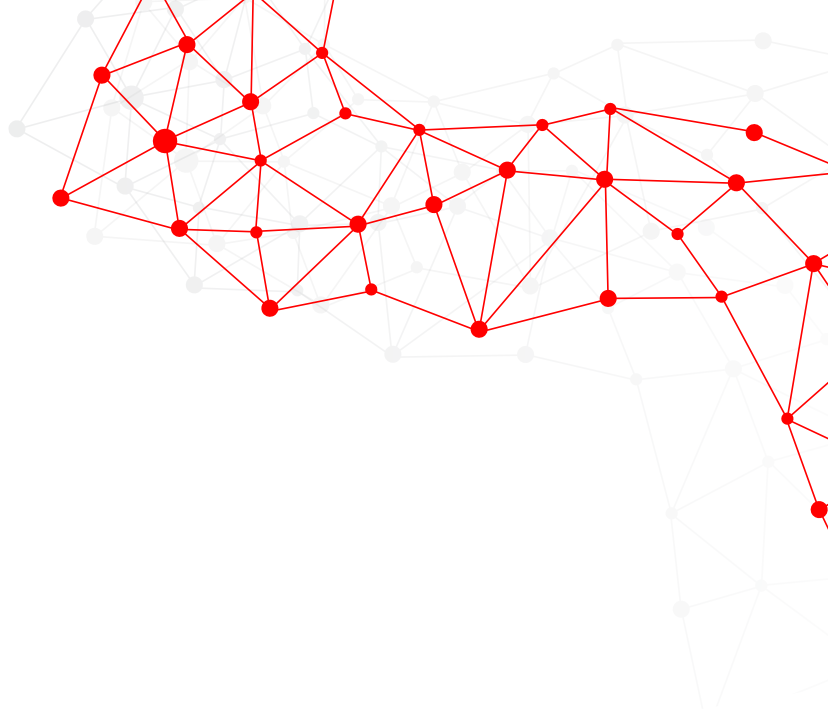
成果、投資対効果、将来の計画

ネットワークの耐性の改善: G-Core Labs社は地域に既存のピアリング関係を持っています。それらを拡大しMegaportのIX経由で同じあるいは追加のピアに接続することで、ロードシェアリングの実装や使用可能帯域幅の拡大が可能となり、全体的なネットワークパフォーマンスが向上します。

遅延の最少化: 香港・シンガポール間は柔軟性のある接続で繋がれており、通常この2つの主要市場間で必要なトラフィック迂回の解消に直接役立っています。そのためG-Core Labs社は、地域の他の主要市場もMegaportが柔軟な接続で繋ぐことを期待しています。

適切にスケールされた接続: 今ではG-Core Labs社は、Megaportポータル内のMegaport独自の「ポイント、クリック、コネクト」で実際の必要帯域幅に合わせて通信容量を瞬時にスケールすることができ、アイドル容量の予測や事前プロビジョニングといった煩わしい手続から解放されました。「経験から言うと、Megaportポータルを介したプロビジョニングのリードタイムは他と比較して非常に短いです。どのサービスも数回のクリックだけで制御できるとは、まさに画期的な機能です。」とReitenbach氏は語ります。

クラウド直接接続: Megaportは全ての大手クラウドサービスプロバイダに直接接続で繋がっているためサービスの追加が簡単で、G-Core Labs社は近い将来新たにクラウド直接接続サービスを導入することも検討しています。



より詳しい情報はこちらから

コネクティビティを容易に

Megaportは100 Gbpsのテクノロジーを活用し、クラウドサービスへの専用アクセスを提供する高スケールなNaaS（サービスとしてのネットワーク）です。当社のソフトウェア定義ネットワーク（SDN）は、世界各地の数百のデータセンターで企業とサービスプロバイダとの相互接続を可能にしています。高速、柔軟、かつダイナミックなMegaportの接続ソリューションで、お客様のビジネスとMicrosoft、Google、Oracle、Amazon Web Services、Nutanix、IBM、SalesforceやAlibabaなど大手クラウドサービスを繋ぐ通信方法が大きく変わります。

megaport.com
info@megaport.com

電話: +61 7 3088 5999
ファックス: +61 7 3088 5998

Level 4, 825 Ann St,
Fortitude Valley, 4006, AU. ABN: 46 607 301 959

 @megaportnetwork

 @megaport

#GETAMEGAPORT

